

## 1 男女が尊重しあう意識改革を進める（意識啓発の継続）

## 1 男女共同参画に対する理解の促進

## (2) 学校教育を通じた男女共同参画社会への理解

## 【質問 1】

「今後の取組」に「男女の特性を捉え」となっていますが、生徒・児童を対象にした性の多様性理解へはどのような取組がなされていますか。

## 【回答】（学校教育課）

道徳の授業や学級活動のなかで、性の多様性も含め、調和と共生について理解を深める指導を行っています。

## 【質問 2】

昨年、制服の自由度について、全市的な対応は今後の課題ということでしたが、気候に合わないあるいは機能性に富まない制服より、ジャージ着用での登下校も多々見られます。冷え性の多い女子がなぜ冬も生足をだし（セーラー服のスカートには大概裏地はついていません）、男子がズボンを着て暖かい思いができるのか不思議でなりません。

地球温暖化により異常気象が多発する昨今、変わりゆく時代の流れの中で、トランスジェンダーへの理解も含め、スラックス導入などの制服自由化の検討がなされていますか。

## 【回答】（学校教育課）

制服自由化については、生徒たちや保護者の声を聴くことやトランスジェンダーへの理解など児童生徒の意識の醸成が必要であると考えています。引き続き、個別対応を行いながら、制服の自由化について検討していきます。

## 【質問 3】

施策内容から今年度は削除されているが、性差にとらわれない自分の個性をふまえたキャリアプラン、自己実現をめざす心を育む取組は、行われていますか。

## 【回答】（学校教育課）

小中学校でキャリア教育を実施しています。その中で、性別にとらわれず、自由な職業選択やキャリアプランニングについて学習しています。

## 2 男女共同参画社会に向けた市民活動への支援

## (2) 地域における市民活動への支援

## 【質問 1】

市民活動い〜輪会議は開催されませんでしたか。（オンライン？）

## 【回答】（協働安全課）

市民活動い〜輪会議は、参加者の固定化や減少により、令和2年度より事業を変更し、新たに「コラボノーバ」を開始することとしておりました。コラボノーバは、団体が集まり、交流を通して新しいコラボを創出することを目的に、毎回テーマを決め、そのテーマに関係する団体に企画から携わってもらうこととしておりました。オンライン開催では、新たなコラボを生み出すことは難しいと判断し、令和2年度の実施はしていません。

## 3 女性・子ども・高齢者等に対する暴力の根絶

(3) 児童虐待の防止・早期発見

【質問 1】

日本語の十分できない外国人市民のかたから、「日本語がわからないので、“赤ちゃん訪問”だけでなく、ママとして岩倉で生活する上での不安も相談させてほしかった」との声がありました。今後もこのような相談は増えると思われま

す。民生児童委員さんの負担増になるかと思われま

【回答】（福祉課）

赤ちゃん訪問の際に、民生委員・児童委員により外国語で対応することは難しいですが、国籍に応じた外国語の子育て情報を記載したチラシを配布したり、訪問時に把握した日本語が十分にできない外国籍市民の情報を健康課へ提供しています。

【質問 2】

コロナ禍という状況下で、児童への「虐待」に関して、何か特筆すべき変化はありませんでしたか。

【回答】（福祉課）

児童虐待について、コロナ禍が影響しているように見受けられる変化は特にありませんでした。

(4) 高齢者虐待の防止・早期発見

【質問 1】

コロナ禍という状況下で、高齢者への「虐待」に関して、何か特筆すべき変化はありませんでしたか。

【回答】（長寿介護課）

特筆すべき変化はありませんでした。

4 人権の尊重

(1) 人権に関する教育・啓発の推進

【質問 1】

パラオリンピックも開催され、パラスポーツの認知度も上がってきました。福祉実践教室で、パラスポーツを通して、障がいを理解するための教室は開催していますか。

【回答】（福祉課）

福祉実践教室のプログラムに、ボッチャ等のパラスポーツを取り入れて実施しています。

【質問 2】

近年、ずっと人権講演会や「ひまわりの種」活動が行われています。アクティブラーニングが声高にいわれる昨今、人権教育の場でも、生徒・児童がさらにアクティブに主体的に参加・参画する取組の展開はありませんか。

【回答】（学校教育課）

【学校教育課】

昨年はコロナ禍で実施できませんでしたが、令和3年度は児童生徒が主体となり取り組む「子ども人権会議」の開催を予定しています。

【市民窓口課】

令和2年度には、実施できなかった人権教室の実施方法について、委員間で協議し、令和3年度からやり方を変えることとなりました。今までは、劇を見せて委員がいじめがいけないことなどを話す形でしたが、いじめに関するDVDを視聴したあと、児童からの声を引き出せるような構成とし、児童が参加・参画する人権教室とする予定です。

【質問 3】

「こどものき・も・ち企画」は、各館で開催し、内容によっては、好評だったようです。しかし、全館合同開催の「にこにこシティいわくら」は新しい生活様式が求められ、どのような企画再構築を予定していますか。

【回答】（子育て支援課）

にこにこシティいわくらも令和元年に10周年を迎えました。これまで、子ども実行委員を募り、子どもたちの意見を聞いてまちづくりを行うことに特化して取り組んできており、子ども実行委員会での様子も年々活性化し、「子どもの参画」および「子どもの意見表明の場」として定着しつつあると考えています。

しかし、新しい生活様式が求められる現状では、今までのように一堂に会して行事を行うことが難しくなり、密にならないよう入場制限を設けたり、開始時間や開催会場を分けたりするなど、新たな基準を設けた上で、子ども達と考える必要があります。規模は小さくなるかもしれませんが、子どもたちのための子どものまちづくりというコンセプトは大切に守っていきたいと考えています。

【質問 4】

今後の取組みとして、こどもが参加し、意見表明をする機会を設ける、とのことですが、これまでの意見はどのように反映されていますか。

【回答】（子育て支援課）

特定の子の意見とはなっていますが、にこにこシティいわくらでは、子ども実行委員と子どもたちからの意見を行事に活かしています。

また、1年に1回ですが、「児童館だより」の配布時に、「こどものき・も・ち企画」として児童館の行事について子どもたちから意見を募っています。その中で要望が多かったものを全館行事として取り入れることで意見表明の場と位置付けています。

(2) セクシュアル・ハラスメント防止の啓発

【質問 1】

教員が、セクハラのみならず、パワハラ等を訴えることができるような仕組み、例えば、コンプライアンス委員会などはありますか。

【回答】（学校教育課）

市教育委員会にコンプライアンス委員会はありませんが、県の方針に基づき対応しています。

(3) 国際理解と国際交流の推進

【質問 1】

国際交流員が保育園や子育て支援センターでも活動をするようになり、以前の国際交流員の活動に比べ、より多忙になったかと思えます。英語が小学校でも1教科となり、国際交流員が活動の時間以外にも小中学校に常駐し、生徒・児童ともしっかりと接する時間がある方が良いのでは、と思えます。他の自治体に比べ、ネイティブに接する機会が少なく、岩倉市の生徒・児童にとって不利益ではありませんか。

国際交流員の増員の可能性、さらにはネイティブALTの常駐の検討はなされていますか。また、2018年度、ネイティブのALTの常駐は今後の研究課題とする、という回答でしたが進展はありましたか。

【回答】（協働安全課）

【協働安全課】

現在、国際交流員は小学校、保育園、子育て支援センター等への国際理解を深める業務に加え、中学校に派遣され、英語の授業の補助をおこなっていますが、協働安全課としては、ALTとして国際交流員の業務を増強し、増員する予定はありません。

【学校教育課】

ネイティブのALTの常駐については、引き続き研究課題としています。

【質問 2】

「課題等」のなかの「今後外国人労働者を受け入れていく」の主語は「社会」ですか？もし、岩倉市ならば、「外国人労働者」という表現に違和感があります。「今後、外国人市民 or 外国籍市民の増加」が予想される、と続ける方が良いのではないのでしょうか。

【回答】（協働安全課）

日本国内の労働力人口が減少し、日本の社会として、今後外国人労働者を受け入れていくことも予想されるため、岩倉市でも多言語での対応が必要となるとの趣旨の記載になります。

【質問 3】

外国人児童生徒の学習支援を覗いてみると、日常生活用語ではなく、教科書にでてくる学習用語が多く、次から次へ出てきて対応できず苦慮している様子が見えました。

生徒児童だけでなく、彼らをフォローする保護者の教育活動への理解も必要になってきます。しかし、家庭の事情は様々で十分できません。各学校というより、市としてチームを組んでフォローする体制はできませんか。

子どもは日々成長していきます。一日でも早く、方策に取り組んでいかないと、子どもたちは日一日とチャンスを失っていきます。高校受験を目前とした外国人生徒は、「国語はあきらめ、数学と英語でなんとかしなければ」、とのことでした。

【回答】（学校教育課）

外国人児童生徒へは、各学校での支援とともに巡回指導も行い、支援体制の充実に努めています。また、保護者に対しては、進学を視野に入れ、早い段階から日本の教育制度への理解を深め、卒業後の進路を考えていただくよう支援に努めています。

(4) 人権を尊重した表現の推進

【質問 1】

新聞の投稿欄に、外国籍生徒・児童の個別指導に「取り出し」といわれ、取り出されることに不本意だ、という投稿がありました。

岩倉市でも、「取り出し」による個別指導を行っている、とのことですが、こうした思いにどのようにお考えですか。

【回答】（協働安全課）

【学校教育課】

岩倉市では、児童生徒の前で「取り出し」という言葉は使わず、「日本語適応指導教室」と呼んでいます。また、児童生徒に対しては、個別に必要な支援を丁寧に行っています。

【質問 2】

実績として、一部の人が参加する会議二件ですが、市民対象の「人権尊重の表現推進」の新しい取組はありませんか。

例えば、生涯学習講座の案内が掲示される岩倉駅通路の掲示板を利用するとか。思い切って、生涯学習センターの壁面を利用するとか。（駅東のスロープ階段を上がると、バローの宣伝になっています）あるいはもっと思い切って、駅のホームから見えるスタジオのガラス窓を利用するとか。（今度の取組の街頭啓発活動のひとつの検討案として、です。）

【回答】（生涯学習課）

愛知県の青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏季・冬季）、に併せて市広報に記事を掲載、市役所生涯学習課窓口において啓発資材の配布を行いました。

2 多様な世帯の安心な暮らしを形成する（家庭生活環境づくり）

1 多様なニーズに対応した子育ての支援

(1) 母子の健康づくりの支援

【質問 1】

若い世代への健康づくりへの啓発で、昨年度、節目歯科健康診査個別通知（20歳、30歳）を有効に活用していく、となっていました。取組は開始または継続していますか。

【回答】（健康課）

節目歯科健康診査は平成30年度から30歳、令和2年度から20歳にも対象を拡大し、若い年代から自身の口腔内に関心を持ち、定期的に歯科健診を受け、歯周病予防につながるよう事業を継続して実施しています。

(2) 子育て、子育て・親育ち支援

【質問 1】

「母子手帳」は母体と新生児の記録ではありますが、子育てに父親が参加もしていくなかで、「母子手帳」を「親子手帳」と名前を変えている自治体も出てきました。名前だけ変えても、……と言うご意見もあるかと思いますが、どのように考えられますか。

【回答】（健康課）

「母子健康手帳」は妊娠中の母親と出生後の子どもの健康を記録するものです。また表紙と1ページ目に保護者の氏名の記入欄があり、月齢年齢ごとに子どもの成長の様子などを記入できるようになっています。父親自身が記入をすることにより、子育てについて意識を高め夫婦で考える機会につながり、現時点では名称の変更をしなくてもよいと考えます。

【質問 2】

子育てにストレスを感じている市民の割合が41.6%となっています。この「市民」は「市民意向調査」の結果ですが、かなり高いような気がします。「市民」が皆、子育てを経験しているわけでもないでしょうし、それでも2人から3人に1人がストレスを感じている？ということですか。ならば、この「ストレス」の対応策は何か検討していますか？

【回答】（健康課）

保健センターでは「い～わ子育て応援事業」として妊娠中からの切れ目ない支援として母子健康手帳を交付する時点から助産師を中心に個別での支援を行っています。妊婦・産婦への電話支援や訪問指導など個別対応とともに、医療機関との連携を通して早期に支援をしています。また、4か月児、1歳6か月児、3歳児の健康診査では、父親の育児参加の状況や母親の子育てに対するの思いを全員に問診で確認し、「育児が楽しいよりつらい」、「つらい」と回答している母親に対して相談・支援をしています。

2 高齢者の暮らしの支援

(2) 高齢者を支える体制の充実と権利擁護

【質問 1】

新聞店など見守り協定を行っていますが、さらに高齢者の溜まり場(?)的なモーニングをやっている喫茶店、地元客密着の飲食店やカラオケ、日用品・食品を購入する地元のお店では協定のような契約はないものの「あの人、どうしてりゃーす」的な見守りをしていると思われます。実際、あるカラオケ店の店主がしばらく顔を見せない常連客(70代独居男性)の自宅に行ったら、その人がこたつで亡くなっていたのを発見したそうです。また、高齢者の客の多くが徒歩でやってくる小さな食品店では、〇〇さんの痴呆は進んできているとか、△△さんは体調悪いらしいとか、周辺の高齢者の様子がうわさ話とともにかなり情報交換されています。

市は申請されるのを待つのみならず、こういったお店に声かけをしておくとか、また、民生・児童委員さんとともに豊中市で展開されたような「見守りローラー作戦」をされてはいかがでしょうか。そうすれば、独居高齢者のみならず「老老介護」、「認認介護」「8050問題」など、世帯ごと社会から孤立してしまう支援を必要とするケースを見つけるあるいは見守ることができるかもしれません。

【回答】(長寿介護課)

商工会を通じて、市内の店舗にも高齢者の見守りについて協力依頼をしていきます。

また、事業所などからの依頼があれば、「認知症サポーター養成講座」などを出張開催するなど高齢者の見守りについての理解を深めていただいています。市内2か所の地域包括支援センターや民生委員児童委員のほか市内店舗などからもひとり暮らし高齢者、高齢者世帯などの情報を得て、相談や支援につなげています。各区の事業や老人クラブの友愛活動による戸別訪問など様々なつながりが高齢者の見守りにつながっています。

3 生涯を通じた男女の健康づくりの支援

(3) 性感染症対策や性教育の推進

【質問 1】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため「いのちの授業」は開催されませんでしたか。

【回答】(健康課)

例年、学校から依頼を受け、「いのちの授業」を実施しておりますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため実施されていません。

(4) 成人の健康づくりの支援

【質問 1】

岩倉市路上喫煙の規制に関する条例が9月に施行されました。12月から路上喫煙禁止区域では喫煙所以外での喫煙は一切禁止ですが、違反者は口頭指導のみです。違反者は過料なしで十分効果があると思われませんか。

【回答】（健康課）

【環境保全課】

本条例は、路上喫煙に関して一定のルールを定めることで、喫煙者と非喫煙者が互いに快適に暮らせるまちづくりを目的に施行されたものであり、路上喫煙を否定し、排除するものではありません。

従って、罰金や過料を規定して違反者を締めつけることよりも、本条例や路上喫煙禁止区域についてしっかりと周知し、違反者には口頭で指導することのほうがふさわしいと考えました。

また、原則として路上喫煙禁止区域内には喫煙所を設置する予定です。看板や路面標示などで路上喫煙禁止区域と喫煙所を併せて周知することで、喫煙者は喫煙所を利用して喫煙することができるため、罰金や過料の規定がなくとも違反行為は抑えられ、条例の効果が得られると考えています。

なお、条例の制定にあたっては、識見者や関係団体、市民委員で構成される路上喫煙規制条例検討委員会を設置し、さまざまな立場や視点から議論をいただき、参考としました。

(5) 高齢者の健康・生きがいづくりの推進

【質問 1】

シルバーリハビリ体操のネーミングと実際の体操の内容ですが。

Rehabilitationで日常生活活動の基本動作の回復の運動・療法をしているのですか、それともfitnessの健康のためのセルフケア的な運動をしているのですか。介護予防なので、シルバーfitnessといってもいいような気もしますが、いかがでしょう。

市外ですが、デイサービスをやっているある事業主さんが、うちは「高齢者フィットネス」です、とおっしゃっていたこともあって。リハビリとフィットネスでは、目的、手段・方法が違うのですよね？

【回答】（健康課）

「シルバーリハビリ体操」は茨城県立医療大学附属病院名誉院長である大田仁史医師が考案したリハビリテーション医学の障害学、動作学から出発した体操です。そのため、脳卒中などで片麻痺になるなど障害があったり、介護を受ける状態であっても、日常生活の自立に必要な動作の筋力を維持するための体操が含まれるので、誰でもどこでもできる体操となっています。また、転倒予防や肩痛、腰痛、膝痛、誤嚥などの予防に対応しても作られています。（各種の高齢者向け体操の多くはアスリートを育てる体育学や運動学から高齢者向けにトレーニングの負荷を減らしたものです。）フィットネスの目的である健康の維持も目的のひとつに含まれますが、もっと包括的な介護予防が目的となります。

【質問 2】

シルバーリハビリ体操指導士養成講座はいつまで継続する予定か。また、講座終了後の健康課の関わりはどうなるのか。最終的には、社会教育関係団体として自立していくのか、今後の方向性を教えてほしい。

【回答】（健康課）

シルバーリハビリ体操指導士養成講座は令和元年度から開講しており、少なくとも5年間は継続して開講する予定であります。その後の開講頻度は未定ですが継続していく予定です。講座受講後のシルバーリハビリ体操指導士は指導士会に所属し、地域の体操教室で指導ボランティアとして活躍しています。健康課としては体操普及活動を行いながら、体操教室実施や指導士派遣依頼などの指導士会の活動をサポートをしており、市民主体の活動団体へ移行できるよう支援を継続していきます。

【質問 3】

ここ数年毎年、課題に「人気のない講座では、募集定員を下回った」とありますが、人気がなくとも開催するのは、是非、高齢者に参加してもらいたい講座ですか？

【回答】（長寿介護課）

人気のない講座はその都度見直しをしています。

【質問 4】

施策に「高齢者が職業経験や技術を活かし」となっていますが、リタイア後に、趣味として腕はあるが、資格がない（例えば、庭木の手入れ、自転車修理、消費生活アドバイザーなど）方もいると思うので、資格取得支援となる講座を開いてもらえませんか。

【回答】（長寿介護課）

【長寿介護課】

さくらの家の自主企画講座で、資格取得支援ができる講座があれば、今後検討していきます。

【商工農政課】

他機関が行う職業訓練などの取組を引き続き周知していきます。

【質問 5】

老人クラブの会員数が年々減少傾向にあります。目標値も減っていますが、今後をどのように考えておられますか。

【回答】（長寿介護課）

全国的に会員数が減少傾向にあるようです。超高齢化に伴い、加入年齢の60歳を過ぎても仕事をされていたり、個人の趣向も幅広くなって、老人クラブに加入されない高齢者の方も多くなっています。しかしながら、高齢者の健康増進や生きがいづくりの居場所として老人クラブの活動は大変重要な役割を果たしています。今後も魅力ある老人クラブ活動の支援を継続していく予定です。

【質問 6】

前年度末でいわくら塾が解散してしまいましたが、いくつかのサークルでは会員の高齢化に歯止めがかかりません。また、ある高齢者会員の多いサークルでは文化協会に入っているにもかかわらず、脱会してもいいのではないかと、という意見も出ました。既存のサークルに「今後も適切な支援を行う」となっていますが、何か具体的な方策の検討をしているのでしょうか。

【回答】（生涯学習課）

ご指摘のとおり、高齢化や新型コロナウイルス流行の影響により会員数が減少している団体が出てきています。そうした既存団体への支援として、生涯学習センター指定管理者と連携し、市の広報誌へ会員募集の記事を掲載しました。今後も指定管理者と連携しながら、生涯学習サークルの支援について検討していきます。

また、新規サークルの登録についても広く周知し、市民の生涯学習活動の支援を行っていきます。

(6) スポーツ活動の充実

【質問 1】

様々なスポーツ教室が記載されていますが、今後、障がい者も含め誰もが参加のできる教室の開催・普及に取り組む予定はありますか。

【回答】（生涯学習課）

スポーツ推進委員や岩倉スポーツクラブにより、障がい者スポーツであるボッチャ教室をはじめ、誰もが気軽に楽しむことができるレクリエーションスポーツであるカローリングやミニテニスの教室などを総合体育文化センター及び学校の体育館などで定期的に開催しています。

また、令和2年度には福祉施設等に出向いてボッチャ教室等の開催ができないか、施設の方と実現に向けて協議しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できませんでしたので、引き続き施設の方と協議するなど、実現に向けて進めていきます。

4 様々な家庭への支援体制の整備

(1) ひとり親家庭への支援の充実

【質問 1】

新規相談件数が昨年の63件から244件の4倍近くになっています。やはり、コロナの影響でしょうか。

また、生活困窮により、友達の家を渡り歩いているような若者や在留外国人への支援はできているのでしょうか？

【回答】（福祉課）

新規相談件数の増加については、住居確保給付金の対象者拡充とともに増加し、特に外国籍の方からの相談が令和2年度の8件から令和3年は112件となり、相談件数の約半数を占めました。相談内容については家賃や住宅ローンの支払いに関するものがほとんどであり、新型コロナウイルスの影響による休業要請等の影響を受けているものと考えます。

生活困窮により住居に困っている人については若者や在留外国人問わず相談を受け、住居確保給付金の申請や貸付等の支援に繋ぐなどの支援ができています。

【質問 2】

成果指標の「ひとり親家庭の相談件数」の目標値の持つ意味はということですか。「多いのがいい」というわけではないかと思うのですが、何を目標としているのですか。

【回答】（子育て支援課）

ひとり親家庭の相談件数については、必ずしも相談件数が多い方がいいと考えてはおりませんが、ひとり親の方が生活面や経済面の悩みを抱え込まず、困った時にはすぐ相談できる体制を整え、利用していただくことが必要と考えているため、目標値としているものです。

(2) 障害者の生活安定と自立支援

【質問 1】

岩倉市ではヤングケアラーはどのくらい存在し、どのように支援が行われていますか。

【回答】（福祉課）

【福祉課】

ヤングケアラーと考えられる相談ケースはありませんでした。該当するケースを把握した場合は、関係機関と連携して対応をします。

【学校教育課】

ヤングケアラーについては、子どもが現状を当たり前のことと置いていたりするため把握が難しく、件数としては数件程度を把握しています。小中学校からの連絡でヤングケアラーと思われる家庭があれば、関係機関と連携し、保護者に対し支援サービスの情報提供をするなど、支援につなげるとともに、世帯の見守りを行っています。

【長寿介護課】

長寿介護課では、どのくらい存在しているかは把握できていません。把握された部署から相談があった場合は、連携してケース会議等に参加し、支援しています。

【質問 2】

成果指標で、生活・自立支援など障がい者（児）福祉に満足している市民が8割に達している、とのことですが、障がい者（児）やその家族以外（生活・自立支援を受けていない人）でありながら、その福祉政策に満足しているとは、どういう意味でしょうか。

あるアンケートでは、日本では、「障がい者との関わりを持ったことがない」が51%に達し、英・米・中・印・台湾・スウェーデン・日の中で最多だったようです。「関わり」を持たない人が「満足」ですか。

【回答】（福祉課）

障がい者福祉施策を客観的に判断して回答をされたと思われます。

【質問 3】

現在、岩倉市内にグループホームはいくつあり、入所定員は何名ですか。今、希望すれば、直ぐに入所できる状態ですか。令和12年度の目標値55は、定員ですか。グループホーム入所者も入所希望者も高齢化していきます。自分や親族が入所するとしたら、血縁も地縁もない遠方のグループホームより、実家の近くの市内のグループホームを終の棲家としたいと思うのですが、十分足りているでしょうか。

【回答】（福祉課）

岩倉市内のグループホームは4つあり、入居定員は、令和3年10月現在31名です。市内のグループホームについては、どこもほぼ満室ですぐには入居できない状況ですが、市外のグループホームも利用することは可能なので、岩倉市近くの市町村のグループホームを利用され、実家近くで生活されている方も多くいます。なお、令和12年度の目標値は定員ではなく、グループホームで暮らす障がい者の人数を55人としています。

【質問 4】

石仏駅東口の新設トイレは男性用多目的と女性用多目的ですか。

【回答】（都市整備課）

そのとおりです。

【質問 5】

岩倉駅東西に多目的トイレ+男子トイレが整備されました。なぜ、東口には女子専用のトイレがないのですか。トイレマークには男・女・多目的となっています。男子より個室の埋まる率が高い女子専用がないのは、不公平きわまりないと思います。せめて、西口程度にすべきだと思います。韓国で男女共同トイレから出てきた健常の男性に若い女性が襲われる事件がありました。駅横ということもあり、夜間でも女性が安心して使用できるトイレにしてください。

【回答】（維持管理課）

岩倉駅東のトイレにつきましては、限られたスペースの中に設置をしたため現状の形となっております。  
ご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解賜りますようお願いいたします。

3 多様なライフスタイルに対応した就業・雇用環境を形成する（就業・雇用環境づくり）

1 多様な働き方の普及と就業能力の形成

(1) 雇用対策の充実、就業・生活支援

【質問 1】

コロナの影響もあり、住居確保給付金の支援を受ける人が増えていると聞きます。しかしながら、期限内で生活再建が難しい人も出てきます。そのような人をどのように支援するのですか。

【回答】（福祉課）

岩倉市では、令和2年度中の最初の緊急事態宣言時に住居確保給付金の申請者が増加しましたが、ほとんどの人が生活自立支援相談室の相談・支援と、給付金の延長や再延長を活用し期限内に自立されています。また生活困窮者を支援する際には、社会福祉協議会の実施する特例貸付を利用するなどして関係機関との連携を図っています。

【質問 2】

ママ・ジョブ・あいち利用者の反応はいかがですか。出張して託児付き以外、ハローワークとの差別化は何ですか。

【回答】（商工農政課）

利用者の満足度は高く、相談後の求職活動につながる内容であったと感じられます。また、ハローワークとの差別化としては、対象者を女性に絞っており、育児と仕事の両立や自分にあった働き方など女性によりそった内容の相談をすることができる点です。

2 男女の均等な雇用機会と待遇の確保

(2) 女性の就労環境改善に向けた普及・啓発・支援

【質問 1】

市役所職員の男女比、年齢層、正規・非正規比、管理職or notを人口ピラミッドのようなグラフで「見える化」してください。

- ・横軸：男女人数
- ・（男女の中心に）縦軸：年齢層
- ・横軸平行に帯グラフで、正規職員数 うち管理職数も別のグラフで同様に、非正規職員数

- ・横軸：暦年（最低10年）
- ・縦軸：人数
- ・折れ線グラフ（男女別）

【回答】（秘書企画課）

別添のとおり。

3 仕事と家庭が両立できる環境の整備

(1) ワーク・ライフ・バランスの普及

【質問 1】

コンサートがコロナの影響で開催されないのは残念です。駅改札の正面の画面とかオンライン配信で演奏・練習風景などとかを流すことはできませんか。

【回答】（生涯学習課）

コロナの影響により各種コンサートが中止または規模縮小での開催となっておりますが、オンラインでの配信も含めて感染対策を講じたうえでの開催方法について検討していきます。

(3) 両立を支える支援の充実

【質問 1】

介護支援・看護支援だけでなく、生活支援として具体的にどのようなことがなされていますか。

【回答】（長寿介護課）

民生委員・児童委員や地域包括支援センター職員が定期的に一人暮らし高齢者の見守りや訪問を実施しています。

生活支援としては、介護度やアセスメントにより高齢者福祉サービスとして、配食サービス、緊急通報システムの設置、布団クリーニング、地震対策として家具転倒防止などやシルバー人材センターによる生活支援サービスなどがあります。

4 男女がともに参画する地域社会を形成する（地域活動環境づくり）

2 地域社会への参画の推進

(1) 市民活動・市民協働の活性化

【質問 1】

定年延長などにより、地域や市民活動の担い手不足、となっています。定年したら即地域（市民活動）の担い手というわけでもなく、試行錯誤しながら地域に溶け込もうとする方も見られます。仕事しながら族の地域や市民活動の担い手創出がワークライフバランスの普及ではないでしょうか。

【回答】（協働安全課）

市民活動支援センターでは、定年退職を間近に控えた世代だけではなく、全世代を対象に市民活動を始めきっかけづくりに取り組んでいます。また、実績に記載のある協働セミナーの参加者は、全員が現役世代であり、地域課題の解決やまちづくりに携わりたいと考える市民の掘り起こしにも取り組んでいます。

【質問 2】

老人クラブや子ども会など学区内での実績が上がっていますが、「音楽のあるまちづくり」の岩倉にはジュニアオーケストラや合唱団（現在も存続？）もあります。ジュニオケは、現在、団員数も先細りのようで、寂しい限りです。名古屋シティからセントラル愛知に成長したオーケストラの力を借りられるのですから、岩倉市全体としてもっと盛り上げる取組はできませんか。

【回答】（協働安全課）

【生涯学習課】

ジュニアオーケストラの運営はセントラル愛知交響楽団に運営委託という形で定期演奏会をはじめとする演奏会を開催しています。ご指摘のとおりここ数年は団員が減少傾向にありますが、団員増加に向けて対策を検討しているところです。また、「音楽普及文化事業」では、セントラル愛知交響楽団による市内小中学校でのオーケストラ演奏や部活動指導、各種コンサートを実施しています。今後もセントラル愛知交響楽団と連携し「音楽あるまちづくり」事業の充実を図ります。

【質問 3】

子どもを対象とした、市内で発掘される遺跡や史跡から岩倉という地域を知る活動に、学校・学区を越えて取組むことはありますか。（町探検など授業カリキュラムは除く）

（参考：民俗学者柳田國男が戦後、成城小学校で行った「史心」を育てる教育の実践。）

【回答】（協働安全課）

【生涯学習課】

子どものみを対象とした事業はありませんが、図書館3階の郷土資料室やくすのきの家2階の展示室で、郷土の歴史の紹介と市内の遺跡から出土した土器の展示を行っています。また、生涯学習センターギャラリーと市役所市民ギャラリーにおいて民俗資料企画展を開催しています。

(2) 地域コミュニティ活動の充実・支援

【質問 1】

改訂版策定の際のパブコメで「賃貸マンションやアパートの新住民と古くからの部落の旧住民では”地域における男女共同参画に対する意識”の地域格差があるのではないか」との指摘がありました。その回答は「適切な啓発活動が必要」で、「セミナーなどの取組を市民と検討していく」とのことでしたが、その後どのようになっていますか。

また、外国人コミュニティとの共生はどのように図られていますか。

【回答】（協働安全課）

地域の男女共同参画の意識の差の要因として、年代、家族構成等様々な要因が挙げられ、その意識の強さは個人毎に違いがあります。そのため、男女共同参画社会の実現には、一人ひとりの意識を高める啓発を行う必要があります。

生涯学習講座として開催される男女共同参画講座では、市民委員とともに、今、求められている講座は何なのかを念頭に企画を行っています。市民目線で企画をすることで、普段、男女共同参画を意識されていない方も気軽にセミナーに参加していただいています。

外国人コミュニティについては、行政区支援の中で、必要に応じ、書類やチラシの翻訳などを行っています。また、個別の相談支援として、令和2年度に市役所内に「外国人サポート窓口」を設置し、一元的相談ができるようになりました。令和3年度には県多文化共生推進室と共催で、初期日本語教育指導者養成講座と外国人向けの初期日本語教室を開催しています。今後、多文化共生に関する取組を国際交流協会等と連携を図りながら検討していく必要があります。

【質問 2】

老人クラブの役員33人中女性4人、女性部長26人となっており、役員と部長の違いは何ですか。また、人口的に男性が少ない年齢層なのに、女性の役員が少ないのはなぜですか。

【回答】（長寿介護課）

老人クラブの役員とは、各地区の老人クラブの代表者などで組織される老人クラブ連合会の役員のごとで、女性部長とは各地区の老人クラブ女性部の部長のごことです。

各地区の老人クラブ女性部長が話し合う場が設けられており、その話し合いの場の代表が、老人クラブ連合会の役員となっていますので、各地区の女性部の意見を集約し、老人クラブ連合会の運営に反映することのできる体制が整っているため、現状の役員構成となっています。

3 地域ネットワークによる地域活動環境づくり

(1) 地域リーダーの育成

【質問 1】

長年実績のある人が会長で活躍しているかどうかよりも、民生児童委員の欠員が常態化している地区があり、その結果、一部の委員さんに加重負担を強いたり、地区の住民が不利益を被ったりということがないようにすることが重要ではないでしょうか。

【回答】（福祉課）

経験豊富な方が会長・副会長として活躍することで、他の民生委員・児童委員の相談や支援ができることは重要だと考えています。欠員が常態化していることは課題と認識しており、区長とも連携し欠員の解消に努めているところです。

【質問 2】

民生・児童委員さんの年齢層、男女比を人口ピラミッドでの「見える化」（今年度）をお願いします。

- ・横軸：（左右に）男女人数
- ・（男女の中心に）縦軸：年齢層（40歳代、50歳代……）
- ・横軸平行に男女人数の帯グラフを

【回答】（福祉課）

別添のとおり。

(3) 子どもや若者の育成支援のためのネットワークづくり

【質問 1】

課題として引きこもり相談について記載がありますが、不登校、生活困窮や障がいがない原因でない、例えば家族関係だったりすると、相談先が明確になっていないということで、引きこもりの方は十分な支援を受けられないのでしょうか。

【回答】（福祉課）

岩倉市での相談先が明確でないことは課題ですが、相談があった際には「あいちひきこもり地域支援センター」や管轄する保健所などに、相談内容に応じて適切につなぐようにしています。

【質問 2】

スクールソーシャルワーカーの支援件数が昨年から倍増しています。昨年すでにコロナ禍でしたが、この増加の原因は何であると分析していますか。  
また、今後、「サポート体制を進める」取組ですが、多忙な教員だけで十分でしょうか。

【回答】（学校教育課）

支援件数の増加理由として、配置開始から2年目となりスクールソーシャルワーカーの認知度が高まったことや、新規相談に加え過年度からの継続支援ケースがあること、また学校と関係機関との調整役としての活動も増えたためであると分析しています。  
今後もサポート体制を進めていくため、教員だけでなくスクールソーシャルワーカーやメンタルフレンド、関係機関が連携し支援体制を整えていきます。

【質問 3】

児童館で中学生の利用を推進するのであれば、もう「児童館」から卒業して、地域の子どもたちの居場所であるような名前に変えてはいかがですか。

【回答】（子育て支援課）

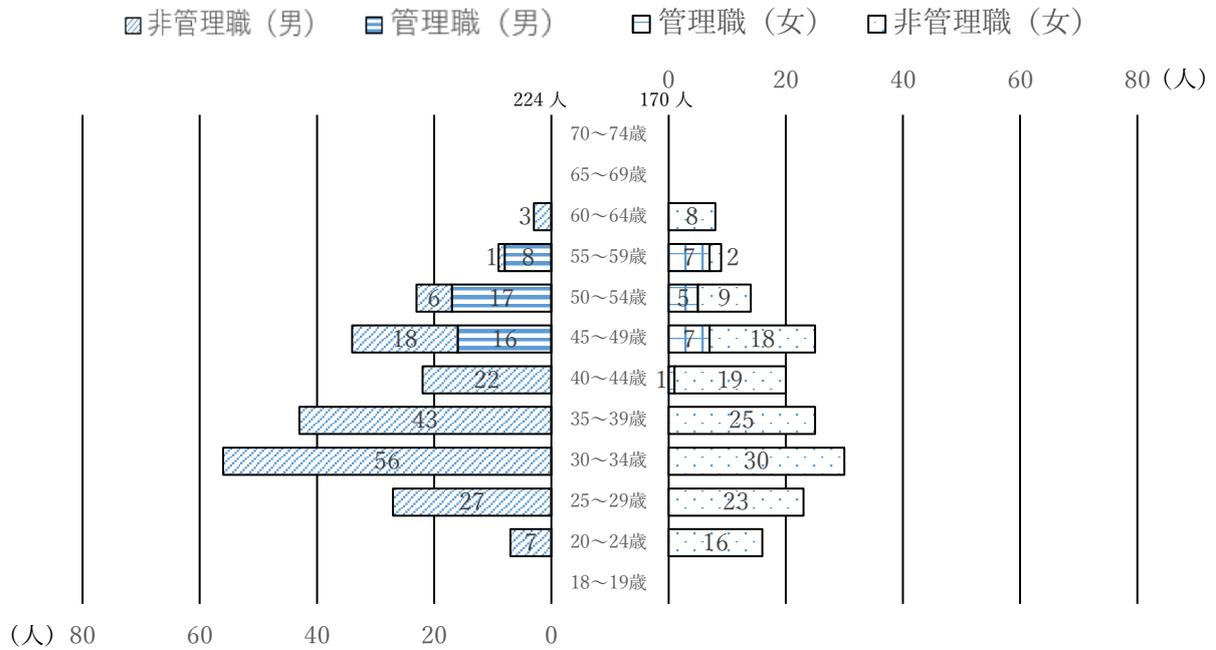
ご意見のとおり、中学生の居場所づくりとして利用の推進に取り組んでいる中、職員の研修においても中学生にとって「児童」という言葉に抵抗を感じて足が遠のいているということについて問題提起されているところです。  
名前の変更についても職員間で議論を進めていますが、中学生の居場所づくりと同様に幼児期の子育て支援についても注力して活動をしています。年齢問わず地域の皆さまに親しんでいただける名前について引き続き検討していきます。

# 別添

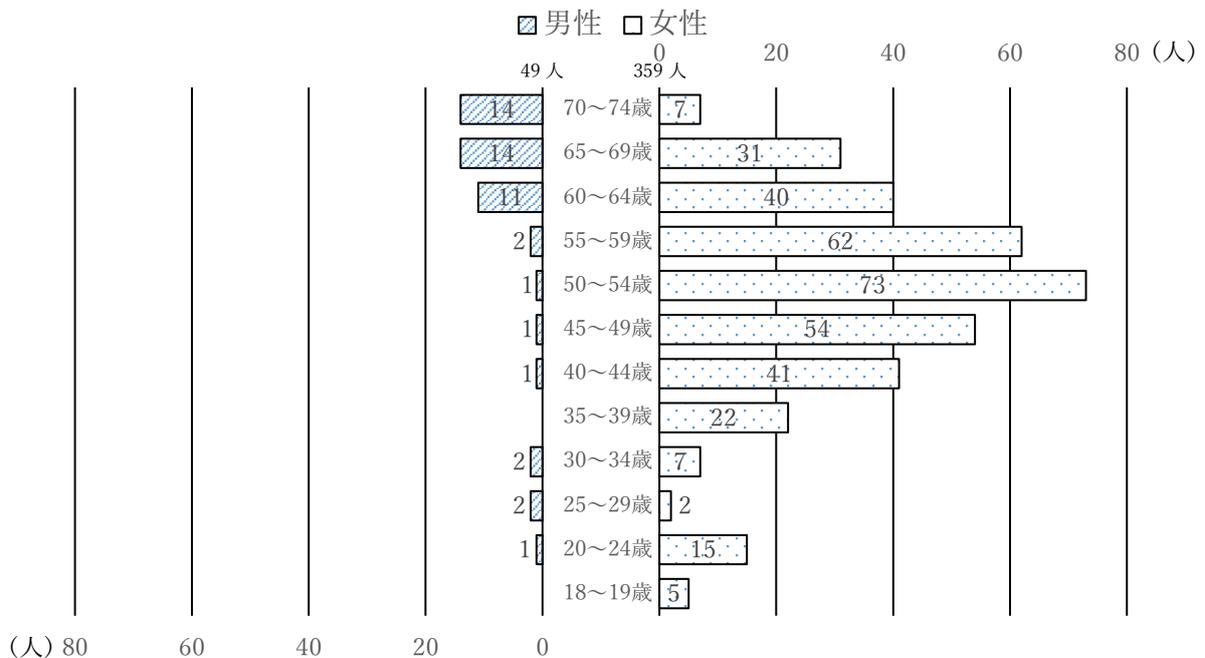
## 3-2-(2) 女性の就労環境改善に向けた普及・啓発・支援

・市役所職員の男女比、年齢層、正規・非正規、管理職・管理職以外のグラフ  
(令和3年10月1日時点)

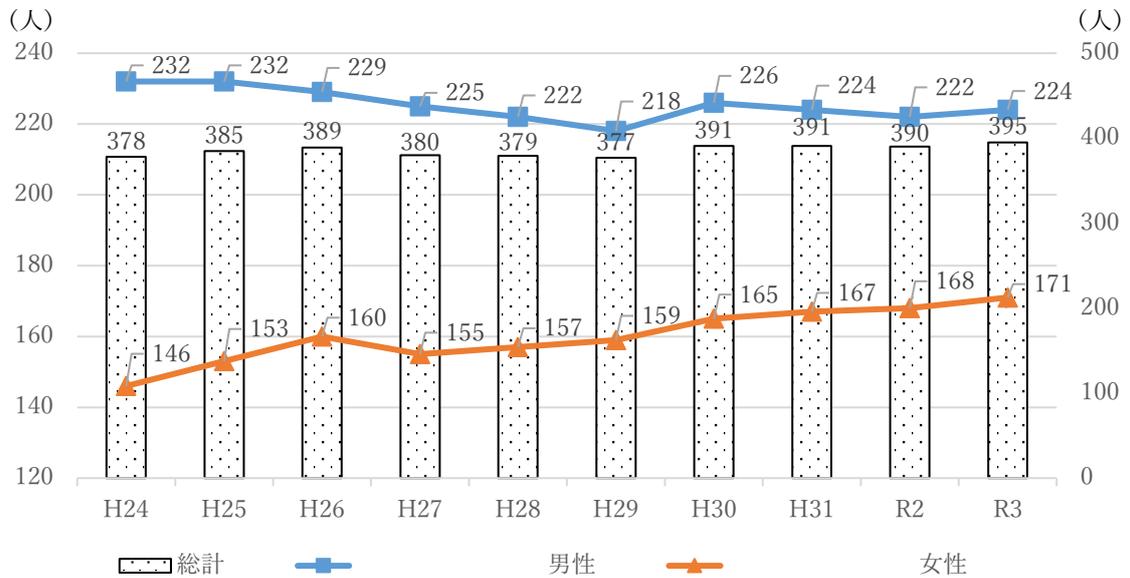
### 【正規職員】



### 【非正規職員】



・市役所職員の男女別の職員数の推移のグラフ（各年度4月1日時点）



4-3-(1) 地域リーダーの育成

・民生委員・児童委員の年齢層、男女比のグラフ

